

金沢大学創基150年記念事業「講演会・シンポジウム」シリーズ 高校生を対象としたがんシンポジウム
「がん研究の現在・未来」を開催しました

2012. 11. 17

11月17日(土) 金沢歌劇座において、文部科学省科学研究費補助金新学術領域「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」青少年・市民公開講座実施委員会主催、がん進展制御研究所共催による高校生を対象としたがんシンポジウム「がん研究の現在・未来～STAND UP TO CACER～」が開催されました。

会場には、石川県内の高校生・一般市民ら約270名が参加し、会場は熱い熱気に包まれていました。シンポジウムは、中村学長の開会挨拶で始まり、京都大学大学院生命科学研究科 石川 冬木教授、順天堂大学医学部 樋野 興夫教授、がん進展制御研究所からは、大島 正伸教授、平尾 敦教授、矢野 聖二教授が高校生にも解かりやすく工夫されたスライド等を用いて時折ユーモアも交えながら、がん研究の最新事情についてお話しされ、高校生達は熱心にメモを取るなど講演者の解説に聞き入っていました。

シンポジウム後半の質疑応答では、高校生から次々と活発な質問があり、講演された先生方も丁寧に答えていました。

シンポジウム終了時には向田がん進展制御研究所長から閉会の挨拶があり、参加した多くの高校生ががん研究の現状と今後の発展に興味を抱き、次の世代を担うがん研究者としての道に進んでくれることを期待させる大変有意義なものとなりました。



開会直前の会場の様子



司会は金沢泉丘高校の山崎君と吉田君



開会挨拶：中村信一金沢大学長



講演：石川 冬木 教授



講演：大島 正伸 教授



講演：矢野 聖二 教授



講演：平尾 敦 教授



講演：樋野 興夫 教授

質疑応答（左から）

平尾 敦 教授

矢野 聖二 教授

樋野 興夫 教授

石川 冬木 教授

大島 正伸 教授



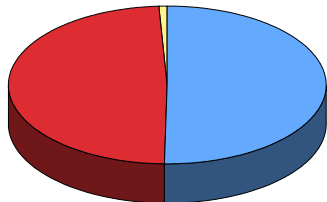
次々と活発に質問する高校生



閉会挨拶：向田 直史がん進展制御研究所長

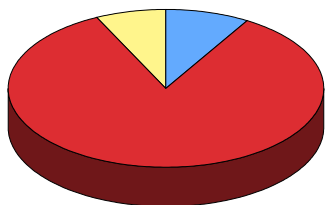
○高校生を対象としたがんシンポジウム「がん研究の現在・未来～STAND UP TO CANCER～」に
参加した高校生に対するアンケート集計結果（平成24年11月17日（土）金沢歌劇座にて開催）

1. 今日のシンポジウムはおもしろかったですか？



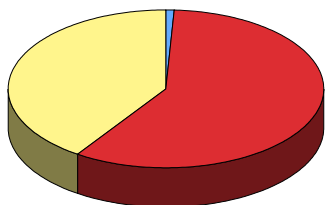
■ おもしろかった。
■ まあまあおもしろかった。
■ おもしろくなかった。

2. 講演の内容はどうでしたか？



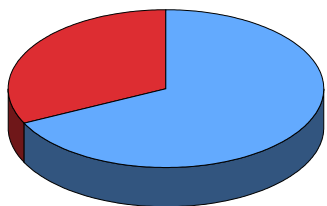
■ 簡単に理解できた。
■ 難しいけど理解できた。
■ 理解できなかった。

3. 将来、がん研究者になりたいと思いますか？



■ 絶対なりたと思った。
■ なってもいいかなと思った。
■ あまり思わなかった。

4. 金沢大学がん進展制御研究所の研究室見学ツアーがあったら参加したいですか？



■ はい。
■ いいえ。

シンポジウムに参加して全体的な感想

- ✓ 難しかったが癌の事に深く触れる事ができて良かった。
- ✓ 癌の発生から治療まで様々な事を学べて大変為になったし楽しかった。
- ✓ 癌は身近な病気であり医学は進歩しているが、まだまだ癌で苦しんでいる人がいるので、もっと進歩させて行かなければならないと思った。
- ✓ 最新の癌研究がよく分かり興味を持って良かった。面白そうなので将来研究ができればいいなと思った。
- ✓ 私たちの健康のために多くの人が様々な研究に挑戦している事がわかり心強く感じた。私も人々の健康と幸せを願えるような医者になりたい。
- ✓ 癌のメカニズムについてほんの少ししか知らなかったが、今回の講演で入口に立てた気がする。
- ✓ 癌には多くの問題が残っているので、将来医療関係の仕事に就き少しでも日本のため、また世界から癌が消えるために努力したい。
- ✓ これからも治療法がたくさん見つかって「癌は必ず治る病気」と言われる世界になってほしい。
- ✓ 実際の研究現場を見てみたい。
- ✓ 将来金大の医学部に進学したいと思っているので、ぜひ研究にも携わりたい。
- ✓ 今日の講演で、また自分の考え方の範囲が広がって嬉しかった。
- ✓ 研究者によって癌に関わる内容が違い、まだまだ研究の余地があると思った。

それぞれの講演に対しての感想

- ✓ 癌も進化して耐性ができるので、薬による長期治療は難しいと思った。
- ✓ 癌は遺伝子の変化と炎症によって起こりやすいということ。
- ✓ 癌は慢性的に起こる炎症によって誘発され、いかに免疫反応とのバランスを保っていくかが今後の癌治療において重要になってくると分かった。
- ✓ 基礎的な知識から専門用語を用いた癌の先端的な治療法まで、幅広く学べた。がん発症の原因の一つが炎症であることに特に驚いた。
- ✓ 癌は3人に1人が死ぬ怖い病気だと思っていたが、分子標的などよく効く薬が開発されつつある事に驚いた。
- ✓ 肺癌治療に用いられる分子標的薬が作用する仕組みが印象的だった。
- ✓ 分子標的薬のように癌細胞を直接攻撃しても、耐性ができる効かなくなるのは癌の生命力が強いからだと思った。
- ✓ 絶対にタバコをやめた方がいいと父に伝えます。

- ✓ 造血幹細胞と BCR-ABL の話が印象に残った。
- ✓ 癌の根っこの話が分かりやすく興味深かった。
- ✓ グリベックに興味を持ったので、もっと調べて理解できる様にしたい。
- ✓ 幹細胞についてとても興味をもち、再生医療の将来が楽しみだ。
- ✓ 癌から哲学を学んでいるのは素晴らしいと思った。
- ✓ 樋野先生のお話は癌の分野以外でも生活に通じるものがあり印象に残った。
- ✓ 「肝臓のような国になれ」というのが印象的で実現するには一人一人の意識が大切だと思う。もっと広めて欲しい。

高校生からの質問など

- ✓ 放射線が原因で癌になったりするのに、放射線で治療できるのはどうして？程度の問題？
- ✓ 抗がん剤は癌細胞そのものに作用して効くのか。癌細胞発生の仕組みに作用して効くのか？
- ✓ 悪性の癌になる前に取ってしまえば、そこから癌にならない？
- ✓ 薬を開発しても次々に抜け穴を見つけるのなら、薬での治療は根本的解決にならないのでは？
- ✓ 薬を開発しても次々に抜け穴を見つけるのなら、薬での治療は根本的解決にならないのでは？
- ✓ 条件が揃えば短期間で癌になる？
- ✓ 血液中を癌細胞が移動し転移するとの事でしたが、血管の中に何か癌細胞をキャッチするような仕組みを作れば転移を防げるのでは？
- ✓ 頭痛薬を飲んでいると癌になりにくいとあったが、癌を予防する薬はあるのか？作れる可能性はあるのか？
- ✓ 薬剤耐性の癌の根絶は難しいのか？
- ✓ グリベックの投与を中止して癌細胞が再び増えた場合、その増えた癌細胞にもまたグリベックが効くのか？
- ✓ 癌細胞から正常な細胞は生まれえないのか？
- ✓ 癌哲学はどの大学のどの学科で学べるのか？